

- 問1 九州地方南部に位置するある県では、県土の約73%を山地が占めるという地形的特徴があります。この県において、飼育頭数が約80万頭に達し、全国でもトップクラスの規模を誇っている家畜は何ですか。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 豚
 2. 乳用牛
 3. 馬
 4. 羊
- 問2 明治時代、日本の近代化を進めるために九州北部に官営の八幡製鉄所が建設されました。この場所に建設された理由として、当時の資源供給の面から説明した文として最も適切なものはどれか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 筑豊炭田などで産出される石炭を燃料として利用しやすく、大陸からの鉄鉱石の輸入にも適していたため。
 2. 近隣で良質なボーキサイトが大量に採掘されており、アルミニウム製造の電力を確保しやすかったため。
 3. 周辺地域に豊富な天然ガスが埋蔵されており、それを活用した新しいエネルギー供給網が整っていたため。
 4. 四万十川などの急流を利用した水力発電によって、鉄鋼生産に必要な大量の電力を安価に得られたため。
- 問3 鹿児島県などに広がるシラス台地において、古くから稲作よりも畑作や畜産が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明はどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 非常に水はけが良く、水田に必要な水を蓄えておくことが困難なため
 2. 土壌に含まれる塩分濃度が高く、稲の根が枯れてしまうため
 3. 河川から運ばれた土砂が固く堆積しており、田を耕すことができないため
 4. 標高が高く年間を通じて気温が低いいため、稲の成長が著しく遅れるため
- 問4 鹿児島県などの南九州に広がるシラス台地では、一般的な地域の井戸が約6メートルから10メートル程度の深さであるのに対し、約64メートルもの深さがある「深井戸」が掘られてきました。このように極端に深い井戸が必要とされた理由として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 福井県公立入試 類似)
1. 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため
 2. 関東ローム層と呼ばれる粘土質の層が厚く、地表付近の水の浸透を妨げているため
 3. 花こう岩の地層が地表近くまで迫っており、岩盤の隙間にあるわずかな水を確保するため
 4. 台風による塩害を防ぐため、海水の混入しない深層の真水を確保するため
- 問5 1980年から2000年にかけての九州地方における工業出荷額の内訳の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。
 2. 食料品などの生活関連型産業が急増し、工業出荷額において電気機械を上回り首位となった。
 3. 加工組立型産業が海外移転により衰退し、再び鉄鋼や化学などの重化学工業が中心となった。
 4. 石油化学コンビナートの増設により、化学工業の出荷額が電気機械の出荷額を大きく引き離れた。
- 問6 日本の農産物の統計において、茶の生産量は全国第2位（34%）ですが、生産額では全国の31%を占めて第1位（2019年時点）となっている都道府県はどこですか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
1. 鹿児島県
 2. 静岡県
 3. 三重県
 4. 千葉県
- 問7 日本の諸地域の統計において、人口は約137万人（2016年時点）で、海岸線の延長が4000kmを超えるという際立った特徴を持つ長崎県について、海岸線がこれほどまでに長くなっている地理的な理由として最も適切なものはどれですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
1. 対馬や五島列島など数多くの島々を抱え、入り江の入り組んだ複雑な海岸線を持つため
 2. 大規模な干拓事業が繰り返された結果、人工的な海岸線が大幅に増設されたため
 3. 九州地方で最大の面積を持ち、東側と西側の両方が外海に広く面しているため
 4. 火山活動による溶岩の流出によって、平坦で直線的な海岸線が延々と形成されたため
- 問8 鹿児島県の農業についてまとめた資料の中で、広大な台地を利用して茶の栽培や畑作、畜産が盛んに行われている背景として説明される、この土地の成り立ちはどのようなものですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 過去の巨大な火山活動による火砕流などの噴出物が堆積した
 2. 河川が長年かけて山から土砂を運び、平坦な土地を形成した
 3. 地殻変動によって海底が押し上げられ、平らな台地となった
 4. 森林を大規模に伐採し、人工的に土を盛り土して造成した
- 問9 九州南部の広範囲に見られる「シラス台地」の土壌の成り立ちと性質について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 火山の噴出物が積み重なって形成されており、水はけが非常に良い。
 2. 河川が運んできた土砂が堆積してできており、水分を蓄える力が強い。
 3. 大昔の貝殻やサンゴが積み重なってできており、アルカリ性が強い。
 4. 植物の遺骸が分解されずに堆積した泥炭地であり、湿気が多い。
- 問10 福岡県の工業出荷額に占める産業別割合を示した統計において、機械工業に次いで大きな割合を占め、北九州工業地域の沿岸部に工場が集中している産業の名称を答えなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 化学工業
 2. 金属工業
 3. 食品工業
 4. せんい工業
- 問11 宮崎県において、農業産出額に占める畜産の割合が他の都道府県と比較して際立って高い理由として、自然環境や土地利用の背景をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 広大なシラス台地が広がり水田稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を利用した家畜の飼育が行われてきた。
 2. 年間を通じて降水量が極めて少なく乾燥しているため、農作物の栽培よりも家畜の管理に適している。
 3. 冬の寒さが厳しく、ビニールハウスを利用した施設園芸農業よりも、室内で行う畜産の方が効率が良いため。
 4. 大消費地である東京圏に隣接しており、鮮度が重要な生乳や精肉を短時間で出荷できる有利な立地条件にあるため。
- 問12 九州地方南部の鹿児島県を中心に広がる、過去の火山活動による噴出物が厚く降り積もって形成された台地を何と呼びますか。 (2015年 兵庫県公立入試 類似)
1. シラス台地
 2. カルデラ
 3. フォッサマグナ
 4. 泥炭地
- 問13 鹿児島県周辺に広がるシラス台地において、古くから稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、または畜産が盛んに行われてきた理由として最も適切なものはどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 土壌の保水力が低く、水が地中にしみ込みやすいため。
 2. 土壌が非常に硬く、田を耕すことが困難であるため。
 3. 標高が高く、夏でも気温が上がらず冷害が発生しやすいため。
 4. 土壌に含まれる有機物が多すぎて、稲の成長が早すぎるため。

答え合わせ・解説

| | | |
|-----|--|---|
| 問1 | 答え 1 豚 | 宮崎県は九州地方南部において、鹿児島県などとともに日本屈指の畜産地帯を形成しています。特に豚の飼育頭数は全国的に見ても非常に多く、広大な山地が多い地形的制約がある中で、生産性の高い畜産業が県の経済を支える重要な産業となっています。 |
| 問2 | 答え 1 筑豊炭田などで産出される石炭を燃料として利用しやすく、大陸からの鉄鉱石の輸入にも適していたため。 | 八幡製鉄所が現在の北九州市に建設された主な理由は、燃料となる石炭を近くの筑豊炭田などから容易に確保できたことです。また、鉄鋼の原料となる鉄鉱石を中国大陸から輸入する際にも、地理的に近い九州北部は非常に有利な条件を備えていました。これにより、九州北部は日本の重工業を牽引する北九州工業地帯へと発展していくことになりました。 |
| 問3 | 答え 1 非常に水はけが良く、水田に必要な水を蓄えておくことが困難なため | シラスは火山の噴出物からなる粒子の粗い土壌であり、水分を保持しにくい「水はけが良すぎる」という性質を持っています。常に一定の水を張っておく必要がある水田（稲作）には不向きであったため、代わりに乾燥に強いサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した肉用牛や豚などの畜産が発展しました。 |
| 問4 | 答え 1 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため | 南九州に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物（シラス）で構成されています。この層は非常に厚く、かつ粒子が粗いため水はけが良すぎるという特徴があります。そのため、雨水はすぐに地下へ浸透してしまい、地表付近で水を得ることが困難です。生活用水を確保するためには、この厚いシラス層を貫き、地下水が蓄えられている「帯水層」に到達するまで深く掘り進める必要がありました。 |
| 問5 | 答え 1 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。 | 九州地方では、かつて北九州工業地帯を中心に鉄鋼や化学といった「基礎素材型産業」が盛んでしたが、1980年代以降、空港周辺や高速道路沿いにIC（集積回路）などの工場が進出したことで「シリコンアイランド」と呼ばれるようになりました。これにより、電気機械や輸送用機械に代表される、部品を組み立てて製品を作る「加工組立型産業」の割合が大きく上昇し、産業構造の転換が起こりました。 |
| 問6 | 答え 1 鹿児島県 | 茶の生産において、かつては静岡県が生産量・生産額ともに圧倒的な首位でしたが、近年は大規模な機械化が進んだ地域が台頭しています。特に、シラス台地などの平坦な土地を利用して効率的な生産を行い、早期収穫が可能な品種（新茶）をいち早く出荷することで、生産額において全国トップクラスに成長したのがこの県の特徴です。 |
| 問7 | 答え 1 対馬や五島列島など数多くの島々を抱え、入り江の入り組んだ複雑な海岸線を持つため | 長崎県は離島の数が日本一多く、県全体の面積は全国で37位程度と決して大きくありませんが、五島列島、対馬、壱岐などの島嶼部や、リアス海岸をはじめとする複雑な地形を含んでいるため、海岸線の総延長は北海道に次ぐ全国2位となっています。統計資料において、面積が同程度の他県に比べて海岸線が圧倒的に長い数値を示している場合は、この地理的特色を判断材料とします。 |
| 問8 | 答え 1 過去の巨大な火山活動による火砕流などの噴出物が堆積した | 九州南部に広がるシラス台地は、約3万年前の始良カルデラなどの巨大噴火によって噴出した火山灰や火砕流が厚く積み重なってできた地形です。このように火山噴出物が起源であるため、稲作に必要な栄養分や保水力に乏しいという特徴がありますが、現在はスプリンクラーなどの灌漑施設の整備が進み、大規模な畑作地帯となっています。 |
| 問9 | 答え 1 火山の噴出物が積み重なって形成されており、水はけが非常に良い。 | シラス台地は、主に過去の巨大噴火による火砕流などの火山噴出物（火山灰や軽石など）が厚く積み重なって形成されました。土壌の粒が粗いため、水が地中にしみ込みやすく「水はけが良い」という特徴を持っています。この性質は、水田稲作よりも畑作に適した環境を生み出しました。 |
| 問10 | 答え 1 化学工業 | 北九州工業地域は、鉄鋼業（金属工業）から発展した歴史がありますが、現在は機械工業や化学工業が工業出荷額の中で重要な役割を担っています。特に化学工業は、広大な敷地と港湾施設を必要とするため、地図上の工場分布を確認すると、内陸部よりも沿岸部に記号が集中していることがわかります。これは原料の輸入と製品の輸出を効率化するための典型的な臨海型工業の特徴です。 |
| 問11 | 答え 1 広大なシラス台地が広がり水田稲作に適さない土地が多いため、広域な土地を利用した家畜の飼育が行われてきた。 | 宮崎県を含む南九州には、火山の噴出物が堆積してできた「シラス台地」が広く分布しています。この土地は水持ちが悪く、かつては大規模な水田稲作には不向きであったため、水に頼りすぎない畑作や畜産業が中心となって発展しました。現在ではこの地理的条件を背景に、肉用牛や豚、鶏などの飼育頭数で全国トップクラスを誇る有数の畜産地帯となっています。東京圏への出荷については、距離が離れているため、フェリーやトラック輸送を活用した広域流通が工夫されています。 |
| 問12 | 答え 1 シラス台地 | 鹿児島県から宮崎県にかけて広がるこの地形は、桜島などの火山から噴出した火山灰や軽石などが大量に堆積してできたものです。粒子が細かく、水はけが非常に良いという地質的な特徴を持っています。そのため、大規模な稲作を行うには水持ちが悪いという土地条件がありますが、その特性を活かした農業が発展してきました。 |
| 問13 | 答え 1 土壌の保水力が低く、水が地中にしみ込みやすいため。 | シラスは火山から噴出した粒子の集まりであり、粒と粒の間に隙間が多いため、水を通しやすいという性質を持っています。そのため、水田に必要な水を溜めておくことが難しく、乾燥に強い作物を中心とした畑作が発達しました。 |